SGH ASSOCIATE

THE FRONTIER TIMES Special Report

名古屋国際中学校・高等学校がこの春から取り組んできたSGHアソシエイトの活動をまとめて紹介いたします。

Special Report 1

▲東日本大震災の体験談に聴き入る生徒たち

1 東日本大震災 震災語り部による講演を開催

2015年11月2日、宮城県石巻市の公益社団法人みらいサポート石巻より、震災語り部として萬代好伸さんをお招きし、約1時間の講演をしていただきました。

SGHアソシエイト活動では、3つの社会課題にテーマを設定して活動していますが、その1つに「多文化共生と減災」があります。愛知県は南海トラフ巨大地震による被災の可能性が危ぶまれており、愛知県をはじめとした西日本の地域でも、地震・災害に対する対策が緊急の課題として位置付けられています。本校でも「多文化共生と減災」のテーマの下、生徒が中心となって「災害」に関する社会課題の解決法の考案と実践を行っています。

今回は災害ボランティアとして、またご自身も被災された被災者としての立場から、萬代さんにお話をしていただきました。この講演では萬代さんの生の言葉を聞き、生徒に災害への認識・知識を深めてもらうことが目的です。萬代さんは、2011年3月11日に発生した東日本大震災を体験されました。地震発生後、萬代さんは会社からの帰宅命令により自宅に急ぎましたが、家までの道のりの間で、川を遡ってきた津波を発見。高台へ避難し、難を逃れたとのことでした。震災後は多くの人達に助けてもらったお礼をしたいという想いから、台風被災地、ハリケーン被害を受けたニューヨークにも足を運び、ボランティア活動に尽力されたそうです。

萬代さんは講演の冒頭で「震災時は多大なる支援や激励の言葉をいただき、本当にありがとうございました。本当に感謝しております」と涙ながらにお話され、生徒や教職員にとって心に残る場面となりました。

ある生徒は「あの言葉を聞いた時に身震いがした」と感想を語り、「ありがとう」という“感謝の重み”と同時に、「自分なら何ができただろう」と感じたようです。この生徒の言葉のように、東日本大震災発生後、私たちは何をすることができたのでしょうか。募金をした人、現地に赴きボランティア活動をした人、励ましの手紙を送った人、そして何もできなかった人。萬代さんの感謝の言葉は、何をしてくれた・してくれなかったということではなく、支援や激励をしてくれた人への言葉でした。

萬代さんの言葉は、東日本大震災で被災した全ての方々からの言葉でもあります。東日本大震災を忘れない、減災の取り組みをしてほしいというだけのものではなく、「人と人とは、心でつながっている」、「時には助け、時には助けられる」といった、人として必要な思いやりや優しさをもった人間性の育成こそが、自然災害に立ち向かうために最も重要であると伝えていただけました。萬代さんからのメッセージを受け、今後も「多文化共生と減災」をはじめとしたSGHアソシエイトの活動がより一層充実したものとなるよう努めていきます。

Special Report 2

2 カーボンオフセット講習で排出権取引を学習

SGHアソシエイト活動テーマ「社会生活と循環」の一環で、排出権取引を行っている株式会社ウェイストボックス代表取締役の鈴木修一郎さんと小川晶子さんにご来校いただき、高校1年生を対象にカーボンオフセットについて講習会を行いました。講習会では鈴木さんのお話の他、実際にカーボンオフセット商品に触れるなどして排出権取引の仕組みを学びました。後半は、排出権を売る側と買う側でグループに分かれて商品を宣伝したり、売買の交渉をするゲームをしたり、ディスカッションなどを行いました。生徒たちはプレゼンテーションや交渉など、ゲームを通して楽しみながら学んでいました。

▲カーボンオフセットについて、グループディスカッションを行っている様子

Special Report 3

3 自衛官講習により災害派遣について考える

2015年11月2日、中高一貫4年生の生徒を対象に、陸上自衛隊の隊員から、東日本大震災、災害時の自衛隊の対応についてご教授いただきました。3時間目は防災講話、4時間目は自衛隊が災害派遣などで使用する車両の見学をしました。「災害救助は72時間以内、3日間が勝負」という話を生徒たちは真剣な眼差しで聞いていました。車両見学では、大きな車両の中の調理用自動野菜皮むき機など、いろいろなものに興味津々でした。この経験を踏まえて生徒は、助けられるため、あるいは助けることができるようになるための行動を具体的に考え始めました。

▲災害時の対応について講話から学習

Special Report 4

4 Kokusai Friend Coffee 販売学習から見えてきたこと

SGHアソシエイト活動テーマ「経済活動と貧困」の分野で取り組んでいる、本校独自のフェアトレード(FT)コーヒー製品の販売を光楓祭で行いました。今回は、コロンビアとメキシコのFT認証豆を使用して、2種類のパッケージを製作しました。FTの仕組みや価格設定の経緯を説明しながら積極的に販売活動を行い、2日間で400個近くを売り上げることができました。

振り返りの学習では、コロンビア豆の方が100個近く多く売り上げたことに着眼。購入者への聞き取りや生徒間での議論から、①写真を用いたカラフルなパッケージが好まれて購入につながった、②コロンビアという国名の方がコーヒーにより馴染みがあるため購入につながった、という2つの仮説を導き出しました。

これまでの学習では、愛知県内でFTに取り組んでいる企業と連携をしながら、ローカルな視点で物事を捉えてきました。今後は、FTが世界規模でどれほどの波及力を持っているのか、グローバルな視点で学習を進めていく予定です。

▲保護者・地域の方々にFTの仕組みを丁寧に説明

Special Report 5

5 愛知県ユネスコスクール交流会でSGHアソシエイト活動を報告

2015年10月10日に愛・地球博記念公園で開催された、平成27年度愛知県ユネスコスクール交流会にて、本校におけるSGHアソシエイトの取り組みを紹介しました。中学生の部では、ロンドン語学研修での活動や防災マップの作成、環境保全・3Rポスター(Reduce、Reuse、Recycle)の作成、エコキャップ活動などの取り組みをポスターセッションの形式で説明しました。ヘルメットをかぶったり、自分たちが作成した環境・3Rポスターを実際に見せて説明するなど、さまざまな工夫をして発表に臨みました。

高校生はフェアトレードコーヒーや災害用携帯トイレ、エコグッズアイデアシートなどの活動についてプレゼンテーションを行いました。本校で作成したフェアトレードコーヒーの実物を持参し、来場者の方々に実際に手に取ってもらうなどしていただきました。発表後の質疑応答では交流会に参加している他校の生徒、一般の観覧者の方々からも様々な質問を受けるなど、興味を持って聞いていただけたようでした。各学校の代表生徒によるパネルディスカッションでは、持続可能な社会に向けての意見交換を行いました。本校からは普通科進学コース1年生の福田恵士君が代表で参加しました。参加した生徒は、慣れない雰囲気のなか緊張した面持ちでしたが、交流会終了後は、今後もこのような外部での発表に参加したいという積極的な意見も聞かれ、大きな刺激になったようです。

▲SGHアソシエイト活動を参加者にプレゼンテーション

Special Report 6

6 SGHアソシエイト夏休み課題の作成

▲生徒が作成した環境保全・3Rポスター

SGHアソシエイトに関連する夏休み課題として、中学生が「自分の住んでいる地域の防災マップづくり」を行いました。今回の課題では自分の住んでいる地域の避難場所を知る、自分の住んでいる地域の危険予測をするという2つの目的を持って実施しました。

自分の住んでいる地域の地図を貼り、自分で調べた広域避難場所と一時避難場所を書き込み、自宅からの経路を確認します。またその経路や自宅周辺で地震や豪雨などの災害が起こった際に、危険だと思われる箇所を予測し、その写真の添付と起こりうる危険事態を記入しました。

多くの生徒が自分が住む地域の避難場所を知らなかったため、改めて「減災・防災」を見直す良い機会になりました。その他にも社会科では「環境保全・3Rポスター(Reduce・Reuse・Recycle)」の作成や、技術科では「エコグッズのアイデア」などを実施しました。

▲生徒が作成した防災マップ

Special Report 7

7 名古屋市消防局昭和消防署による救命講習の受講を進めています

名古屋市消防局昭和消防署にご協力いただき、部活動や学年単位で普通救命講習の受講を進めています。普通救命講習とは心肺蘇生やAED(自動体外式除細動器)の使い方、けがの手当など、応急手当の習得を目指すものです。現在、校内受講者は36人になりました。

知識・技術を主体的に学び、非常事態でも行動できる能力を身につけるだけではなく、中には外国語による救命活動を学びたいという積極的な生徒も。今後も学校全体で受講者や有資格者を増やし、お互いの「命を繋いでいく意識」を育みます。

Special Report 8

8 現役大学院生(京都大学・同志社大学)との交流会

2015年11月2日、京都大学大学院生命科学研究科から小林勇貴さん、同志社大学大学院総合政策研究科から大西由紀さんが来校し、本校生徒と交流しました。お二人は研究の傍ら日米学生会議の実行委員、学生団体NESTの創設やユネスコ会議のボランティアをされており、国際交流なども活発に行っています。小林さんは来春からマラウィ共和国に青年海外協力隊・理科教員として派遣されるとのことで、「今回の訪問は、日本のグローバル教育について考えるよいきっかけとなりました。将来、IB教育において即戦力となれるよう努めていきます」とお話ししてくださいました。現役大学院生との交流を通じて、生徒は、自分がどのような大学生になりたいかを考える好機となりました。

Hot! Information これまでの活動、今後の予定

本校は今年度より、文部科学省からSGHアソシエイト校の指定を受けました。SGHアソシエイトとして「多文化共生と減災」「経済活動と貧困」「社会生活と循環」の3分野での活動を計画し、総合的な学習の時間、公募、各教科の授業時間、海外での国際理解研修などさまざまな場面で、社会課題の解決に向けての取り組みを実践してきました。

SGHアソシエイト活動の取り組みは、名古屋国際の歴史において教科教育の枠を超えた新しい教育の幕開けです。開校以来グローバル・リーダーの育成を目標に掲げ、国際教育や教科教育の実践を行なってきましたが、大学や一般企業・NGO・NPOとの外部機関との連携協力を踏まえたSGHアソシエイト活動によって、本校の教育活動はさらに洗練し、向上していくものといえます。外部機関との連携協力や、多方面にわたるグローバル・リーダーたちと生徒が交流する機会により、学校の枠を超えた「経験」や「人との出会い」を体感し、多面的・多角的に物事を考えることができる素養の育成を目指します。

2015年度のSGHアソシエイトの活動は、2016年2月のSGHアソシエイト報告会で、今年度の活動を総括し発表する予定です。具体的には、生徒たちが行った実践の事例やアクティブラーニングによる模擬授業、卒業生によるSOCIAL ACTION !(社会貢献活動)の紹介等を行います。また当日は、大学の先生や一般企業の方を招き、交流を深める時間も予定しています。

2016年からの活動は、2015年度のSGHアソシエイト活動の改善と発展、より明確なグローバル・リーダー像を提示し、“SOCIAL ACTION !を効率よく進めるための具体的な手法”の習得を目指します。今後は大学入試改革などもあり、これまでとは異なる評価基準になることが予想されています。SGHアソシエイト活動を行った本校の生徒たちが、グローバル社会でリーダーシップを発揮していくことを願い、今後も新しい価値観を生み出す取り組みを計画していきたいと考えています。

▲SGHアソシエイト活動の取り組みを進める教職員